

## 第 V 章 研究成果

2012 年度までに発表された研究成果を示す。



# 1 学会発表

- 1) 平井 啓, 工藤直志, 塩崎麻里子, 山木照子, 秋山美紀, 的場元弘, 宮下光令, 森田達也, 秋月伸哉, 白髭 豊, 江口研二. 地域住民の緩和ケアの利用に対する準備性と各種メディアに対する信頼性: OPTIM study. 第13回日本緩和医療学会学術大会. 2008.7.4~5, 静岡
- 2) 吉田沙蘭, 宮下光令, 平井 啓, 森田達也, 秋月伸哉, 秋山美紀, 白髭 豊, 江口研二. 一般市民がもつ緩和ケアの整備に対する認識: OPTIM study. 第13回日本緩和医療学会学術大会. 2008.7.4~5, 静岡
- 3) 赤澤輝和, 森田達也, 笹ヶ瀬容子, 藤森まり子, 山岸暁美, 坂本はと恵, 秋月伸也, 江口研二. がん医療における相談記録シートの作成と実施可能性の検討: OPTIM study. 第13回日本緩和医療学会学術大会. 2008.7.4~5, 静岡
- 4) 古村和恵, 宮下光令, 森田達也, 山岸暁美, 井村千鶴, 前堀直美, 平山美香, 吉原律子, 秋月伸哉, 志真泰夫, 江口研二. がん患者と医療者の情報共有ツール「わたしのカルテ」の必要性に関する質問紙調査: OPTIM STUDY. 第13回日本緩和医療学会学術大会. 2008.7.4~5, 静岡
- 5) 大木純子, 古村和恵, 野末よし子, 森田達也. がん患者に求められる支援・サポートとは~地域医療者のプレインストラミングの結果から~: OPTIM STUDY. 第13回日本緩和医療学会学術大会. 2008.7.4~5, 静岡
- 6) 前堀直美, 伊藤 謙, 富田 治, 笹田庸子, 野末よし子, 井上 聡, 森田達也. 浜松市保険薬局薬剤師に対してのがん緩和医療に関するアンケート調査. 第13回日本緩和医療学会学術大会. 2008.7.4~5, 静岡
- 7) 深堀浩樹, 宮下光令, 森田達也, 市川堯之, 秋月伸哉, 秋山美紀, 白髭 豊, 江口研二. 高齢者施設におけるがん患者への緩和ケアの実態: OPTIM study. 第13回日本緩和医療学会学術大会. 2008.7.4~5, 静岡
- 8) 宮下光令, 森田達也, 吉田沙蘭, 三條真紀子, 秋月伸哉, 秋山美紀, 白髭 豊, 江口研二. 一般市民のがん医療に対する安心感および医療用麻薬・緩和ケア病棟に対する認識: OPTIM study. 第13回日本緩和医療学会学術大会. 2008.7.4~5, 静岡
- 9) 宮下光令, 森田達也, 市川堯之, 秋月伸哉, 秋山美紀, 白髭 豊, 江口研二. 地域の医師・看護師の緩和医療の提供に関する自信および困難感: OPTIM study. 第13回日本緩和医療学会学術大会. 2008.7.4~5, 静岡
- 10) 山岸暁美, 宮下光令, 森田達也, 秋月伸哉, 秋山美紀, 白髭 豊, 吉田沙蘭, 江口研二. 一般市民および地域在住がん患者の療養死亡場所の希望: OPTIM study. 第13回日本緩和医療学会学術大会. 2008.7.4~5, 静岡
- 11) 山岸暁美, 宮下光令, 森田達也, 市川堯之, 秋月伸哉, 秋山美紀, 白髭 豊, 江口研二. がん患者における在宅療養継続の阻害要因および在宅診療提供体制: OPTIM study. 第13回日本緩和医療学会学術大会. 2008.7.4~5, 静岡
- 12) 森田達也, 井村千鶴, 野末よし子, 赤澤輝和, 古村和恵. 緩和ケア普及のための地域介入プログラムの実施可能性と有用性: OPTIM 浜松. 第14回日本緩和医療学会学術大会. 2009.6.19~20, 大阪
- 13) 前堀直美, 水上有紀子, 出雲孝志, 安達三郎, 森田達也, 永江浩史. 保険薬局の電話モニタリングと受診前来局による症状緩和の評価: OPTIM 浜松. 第14回日本緩和医療学会学術大会. 2009.6.19~20, 大阪
- 14) 鄭 陽, 井村千鶴, 野末よし子, 森田達也. 緩和ケア普及のための地域介入プログラムにおける緩和ケアセミナーの有用性: OPTIM 浜松. 第14回日本緩和医療学会学術大会. 2009.6.19~20, 大阪
- 15) 清原恵美, 井上 聡, 福田かおり, 井村千鶴, 森田達也. 地域緩和ケアを促進するための看護師に対するホスピス研修の有用性: OPTIM 浜松. 第14回日本緩和医療学会学術大会. 2009.6.19~20, 大阪
- 16) 藤本亘史, 森田達也, 深澤貴子, 川口知香, 佐々木一義, 吉川陽子, 山田博英, 鷲津潤彌, 鈴木留美, 伊藤富士江. 地域医療者調査をもとに地域の課題を共有するための緩和ケア専門家によるフォーカスグループの試み: OPTIM 浜松. 第14回日本緩和医療学会学術大会. 2009.6.19~20, 大阪
- 17) 井村千鶴, 藤本亘史, 細田 修, 小野宏志, 森田達也. 地域緩和ケアチームによるアウトリーチの有用性: OPTIM 浜松. 第14回日本緩和医療学会学術大会. 2009.6.19~20, 大阪
- 18) 赤澤輝和, 森田達也, 古村和恵, 井村千鶴, 野末よし子. 地域の緩和ケアサービスの情報共有方法はどのようにすればよいか?: OPTIM 浜松. 第14回日本緩和医療学会学術大会. 2009.6.19~20, 大阪
- 19) 大木純子, 古村和恵, 野末よし子, 井村千鶴, 森田達也. がん患者に求められる支援・サポートについての地域でのフォーカスグループ: OPTIM 浜松. 第14回日本緩和医療学会学術大会. 2009.6.19~20, 大阪
- 20) 野末よし子, 井村千鶴, 西尾かをる, 佐藤文恵, 松井順子, 森田達也. 浜松市におけるがん患者のケアマネジメントについての実態調査: OPTIM 浜松. 第14回日本緩和医療学会学術大会. 2009.6.19~20, 大阪
- 21) 三原一郎, 鈴木 哲, 秋山美紀, 武林 亨, 中目一郎, 鈴木 聡, 松原要一. 地域緩和ケア推進のための情報共有ツールの開発と運用: OPTIM study 鶴岡. 第14回日本

- 緩和医療学会学術大会. 2009.6.19~20, 大阪
- 22) 古村和恵, 佐久間由美, 鈴木小ゆり, 前堀直美, 野末よし子, 井村千鶴, 森田達也. がん患者の医療情報共有ツール「わたしのカルテ」の有用性に関する介入調査: OPTIM 浜松. 第 14 回日本緩和医療学会学術大会. 2009.6.19~20, 大阪
- 23) 白髭 豊, 出口雅浩, 吉原律子, 平山美香, 北條美能留, 川崎浩二, 野田剛稔. 在宅スタッフが拠点病院緩和ケアカンファレンス, ハイリスク・カンファレンスに参加することによる在宅移行症例数の増加: OPTIM 長崎. 第 14 回日本緩和医療学会学術大会. 2009.6.19~20, 大阪
- 24) 林 真子, 尾崎 仁, 原田久美子, 秋月伸哉, 木下寛也, 内富庸介, 江角浩安. がん末期患者の在宅療養移行時の地域連携における課題とその解決法について—地域の医療福祉従事者による症例検討会を通して: OPTIM STUDY. 第 14 回日本緩和医療学会学術大会. 2009.6.19~20, 大阪
- 25) 森田達也, 山岸暁美, 秋山美紀, 木下寛也, 白髭 豊, 江口研二. 緩和医療と精神腫瘍学—地域における緩和ケア: OPTIM プロジェクトから学んだこと—. 第 68 回日本癌学会学術総会. 2009.10.1~3, 横浜
- 26) 山岸暁美, 久部洋子, 山田雅子, 森田達也. 在宅の視点のある病棟看護尺度の開発. 第 29 回日本看護科学学会学術集会. 2009.11.27~28, 千葉
- 27) 古村和恵, 山岸暁美, 森田達也, 末田千恵, 川越正平, 秋月伸哉, 永江浩史, 富樫 清, 江口研二. 「わたしのカルテ」の運用課題と有用性に関する多地域・多施設インタビュー調査: OPTIM study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 28) 古村和恵, 山岸暁美, 森田達也, 宮下光令, 秋月伸哉, 白髭 豊, 秋山美紀, 佐藤一樹, 加藤雅志, 江口研二. 進行がん患者および遺族は在宅療養について「急な変化や夜間に対応できない」「病院と同じように苦痛を和らげられる」と思っているか?: OPTIM study による多施設調査. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 29) 佐藤一樹, 宮下光令, 五十嵐歩, 梅田 恵, 石ヶ森一枝, 木澤義之, 秋山美紀, 秋月伸哉, 森田達也, 白髭 豊, 江口研二. 地域の医療機関に勤務し, がん患者をケアする看護師の緩和ケアに関する知識, 実践, 困難感の実態とその関連要因: OPTIM study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 30) 五十嵐歩, 森田達也, 宮下光令, 佐藤一樹, 秋山美紀, 秋月伸哉, 白髭 豊, 江口研二. 終末期がん患者における死亡場所と死亡前の療養場所の特徴: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 31) 宮下光令, 森田達也, 秋山美紀, 秋月伸哉, 白髭 豊, 江口研二. がん医療に対する安心感尺度の作成と関連要因: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 32) 宮下光令, 森田達也, 佐藤一樹, 五十嵐歩, 秋山美紀, 秋月伸哉, 白髭 豊, 江口研二. 地域の病院 (一般病棟, 緩和ケア病棟), 診療所のがん患者の遺族による緩和ケアの質の評価: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 33) 平井 啓, 秋山美紀, 武林 亨, 的場元弘, 宮下光令, 森田達也, 白髭 豊, 秋月伸哉, 江口研二. がん患者と遺族の緩和ケアに対する認識と準備性: OPTIM study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 34) 大谷弘行, 福田かおり, 森田達也, 清原恵美, 白土明美, 小田切拓也, 井上 聡. 「看取りのパフレット」を用いた家族への介入研究: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 35) 鈴木留美, 外山久美子, 請井ちひろ, 藤本亘史, 山田博英, 佐々木一義, 福本和彦, 森田達也. 外来で実施可能な緩和ケアのニーズを把握する問診票: 「生活のしやすさの質問票」第 3 版を使用した 2000 件の実践: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 36) 福本和彦, 深澤貴子, 川口知香, 坂口孝宣, 田中達郎, 大西一功, 今野弘之, 森田達也. 麻薬導入タイトレーションパス作成の効果: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 37) 赤澤輝和, 川崎由実, 山田博英, 野末よし子, 井村千鶴, 伊藤富士江, 森田達也. 病院内のどこにどんな緩和ケアの冊子をおいたらいいのか?: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 38) 前堀直美, 水上有紀子, 伊藤 譲, 安達三郎, 井村千鶴, 永江浩史, 森田達也. 保険薬局薬剤師の電話モニタリングによる症状緩和の評価: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 39) 山田博英, 川崎由実, 内山瑠美, 津村明美, 井村千鶴, 佐々木一義, 鈴木留美, 福本和彦, 森田達也. 地域のがん患者・遺族調査の自由記述の内容分析に基づく病院医師向け緩和ケアリーフレット作成: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 40) 野末よし子, 松井順子, 西尾かをる, 佐藤文恵, 伊藤富士江, 井村千鶴, 森田達也. 地域における介護保険の迅速化介入のフォローアップ調査: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 41) 伊藤富士江, 井村千鶴, 熊谷純一, 井ノ口佳子, 福本祐子, 森田達也. 理論サンプリングに基づく診療所訪問による在宅緩和医療の課題と解決策の抽出: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 42) 青木 茂, 熊谷純一, 藤島百合子, 小野宏志, 金子重久, 小助川雅巳, 細田達也, 西澤由佳, 森田達也. 地域緩和ケアプログラムによる在宅死亡数の変化と, 同一地域における在宅・ホスピス・病院死亡患者の遺族の評価の差: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 43) 佐々木一義, 吉川陽子, 松井有美栄, 鈴木留美, 山田博英, 福本和彦, 小野宏志, 森田達也. 地域緩和ケアプログラムによる専門緩和ケアサービスの利用状況の変化: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 44) 佐藤 泉, 佐原千恵子, 木村美保, 名倉桂古, 和久田晴久, 増田順子, 石塚知己, 大場友輝, 西尾かをる. 地域の地域連携担当者地域医療福祉従事者が行う連携ノウハウ共有会とデスカンファレンスの有用性: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 45) 井村千鶴, 井上 聡, 清原恵美, 佐久間由美, 加藤亜沙代, 大木純子, 笹ヶ瀬容子, 田村ひでみ, 若野倫義, 野末よし子, 森田達也. 地域における緩和ケアの連携を促進するための地域多職種カンファレンスの有用性: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京



- 46) 細田 修, 小野宏志, 青木 茂, 藤本亘史, 井村千鶴, 森田達也. 診療所における地域緩和ケアカンファレンスの有用性の質的分析: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 47) 福田かおり, 大谷弘行, 津村明美, 森田達也, 清原恵美, 白土明美, 小田切拓也, 井上 聡. 「看取りのパンフレット」を用いた遺族の体験に関する質的研究: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 48) 赤澤輝和, 野末よし子, 倉田園子, 井村千鶴, 伊藤富士江, 森田達也. 地域に一斉配布した緩和ケアの啓発マテリアルはどうなっているのか? OPTIM 浜松からの全数実態調査. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 49) 川口知香, 福本和彦, 深澤貴子, 河合みどり, 桑原弓枝, 田中達郎, 大西一功, 森田達也. 緩和ケアチーム看護師の専従化が緩和ケアチームの活動に及ぼす効果: OPTIM 浜松. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 50) 末田千恵, 山岸暁美, 森田達也, 宮下光令, 秋月伸哉, 白髭 豊, 秋山美紀, 佐藤一樹, 加藤雅志, 江口研二. がん患者の遺族は, どのくらい介護負担感を感じているのか?: OPTIM-study による多施設調査. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 51) 山岸暁美, 森田達也, 宮下光令, 秋月伸哉, 白髭 豊, 秋山美紀, 佐藤一樹, 加藤雅志, 江口研二. 外来進行がん患者の疼痛と Quality of Life に関する多施設調査: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 52) 山岸暁美, 森田達也, 古村和恵, 末田千恵, 白髭 豊, 秋山美紀, 秋月伸哉, 武林 亨, 加藤雅志, 江口研二. 地域で緩和ケアを普及させるために取り組むべき課題は何か? OPTIM-Study 一介入 4 地域の医療福祉従事者によるフォーカスグループからの課題抽出と意見交換会の評価一. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 53) 渋谷美恵, 阿部恵子, 富樫 清, 白峯ゆみ, 山岸暁美, 末田千恵, 工藤由美, 本間幸井, 佐藤和佳, 斎藤典子, 鈴木聡. 病棟看護師は, 訪問看護ステーションで何を学んだか?: OPTIM 鶴岡一病棟看護師の在宅の視点を養う研修プログラムのファーストステップ一. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 54) 叶野明美, 鈴木 聡, 土田兼史, 富樫 清, 佐藤八重, 相庭 伸, 佐藤智行, 長谷川伸, 菅原由紀, 末田千恵, 山岸暁美. 緩和ケアの市民啓発における寸劇の有用性評価: OPTIM 鶴岡. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 55) 佐藤八重, 長谷川伸, 和泉典子, 奥山慎一郎, 渋谷美恵, 佐藤久美, 富樫 清, 叶野明美, 佐藤 正, 土田兼史, 鈴木 聡. がん患者・家族サロン「ほっと広場」の有用性評価: OPTIM 鶴岡. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 56) 鈴木 聡, 渋谷美恵, 富樫 清, 高橋牧郎, 高橋美香子, 中目千之, 秋山美紀, 武林 亨, 松原要一. 緩和ケアスキルアップ研修会は, どの程度緩和ケアの普及に貢献できたか: OPTIM 鶴岡. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 57) 山川 宣, 山岸暁美, 古村和恵, 江口研二. 緩和ケア普及における情報発信一ホームページの利用動向一 OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 58) 加藤雅志. わが国における地域緩和ケア OPTIM プロジェクトの経験から. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 59) 吉原律子. 地域での緩和ケア提供への取り組み. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 60) 鬼塚伸也, 内田恭一郎, 末永良子, 河村留理子, 古田美津子, 平田康子, 川上聡子, 早川 滉, 吉田二美子, 白髭 豊, 野田剛稔. 当院における緩和ケアの評価と課題~OPTIM 長崎 アンケート調査から~. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 61) 秋山美紀, 武林 亨, 平井 啓, 的場元弘, 森田達也, 宮下光令, 山岸暁美, 白髭 豊, 秋月伸哉, 江口研二. 地域で療養生活を送ることに関する患者, 家族の安心感とその要因: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 62) 平山美香, 野田剛稔, 白髭 豊, 吉原律子. がん診療連携拠点病院外に設置した「がん相談支援センター」の利用実績と役割: OPTIM 長崎. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 63) 原田久美子, 中村香織, 山岸暁美, 末田千恵, 古村和恵, 内田麻衣, 酢崎真理子, 宮島貴代子, 植野順子, 渡邊由紀子, 木下寛也. がん患者のケアマネジメントにおける医療連携の課題: OPTIM 柏. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 64) 安中正和, 詫摩和彦, 白髭 豊, 野田剛稔. 長崎市における患者・遺族調査の分析: OPTIM 長崎. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 65) 木澤義之, 宮下光令, 佐藤一樹, 森田達也, 江口研二. 地域の医療機関に勤務する医師の緩和ケアに関する知識・実践・困難感? がん対策のための戦略研究『緩和ケア普及のための地域プロジェクト』介入前調査から: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 66) 林 真子, 原田久美子, 秋月伸哉, 木下寛也. 多職種対象の効果的な緩和ケア研修の検討: OPTIM 柏. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 67) 奥平定之, 詫摩和彦, 野田剛稔, 白髭 豊, 安中正和, 吉原律子, 上戸穂高. 長崎県における施設看取りの実態調査: OPTIM 長崎. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 68) 武林 亨, 秋山美紀, 平井 啓, 的場元弘, 森田達也, 宮下光令, 山岸暁美, 秋月伸哉, 白髭 豊, 江口研二. 緩和ケア・医療用麻薬に関する患者, 家族の知識とケアの質評価尺度および緩和ケアの準備状態との関連: OPTIM-study. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 69) 林 真子, 原田久美子, 内田麻衣, 坂本はと恵, 市橋富子, 小川朝生, 秋月伸哉, 木下寛也. 院外型がん相談支援センターの特徴と課題の検討一院内型がん相談支援センターとの比較から: OPTIM 柏. 第 15 回日本緩和医療学会学術大会. 2010.6.18~19, 東京
- 70) 中目千之. 未整備地域における緩和ケアシステムの構築~医師会の立場から~. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29~30, 札幌
- 71) 瀬尾利加子. 未整備地域における緩和ケアシステムの構築

- ～地域医療連携の立場から～. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 72) 益富美津代. ホスピス病棟からみた, 長崎地域における OPTIM による効果と今後の課題. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 73) 古川美和, 白髭 豊, 藤井 卓, 鳥山ふみ子, 吉田共栄, 野田剛稔. 緩和ケアの中の「食」～食べる意欲が生きる意欲へ～. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 74) 原田久美子, 木下寛也, 内田麻衣, 小島歩実子. 病院内に設置された相談支援センターの活動について. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 75) 荒巻麻衣子. 柏市におけるがん対策の取り組み～OPTIM との連携から得られたもの～. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 76) 前堀直美. 外来通院・在宅患者に対する保険薬局薬剤師の介入責任と今後の課題～がん戦略研究 OPTIM プロジェクト参加からの考察～. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 77) 佐藤 泉. 自分らしい療養生活を支えるための訪問看護師としての活動報告と今後の課題. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 78) 佐田悦子, 出口雅浩, 野田剛稔, 白髭 豊, 富安志郎, 松尾誠司, 松尾英俊, 龍 恵美, 峰 忠文, 平山美香. 在宅緩和ケアにおける保険薬局の関わり・医療用麻薬の適正管理に向けて「緩和ケア普及のための地域プロジェクト (OPTIM)」長崎での取り組み. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 79) 山本 亮, 森田達也, 大谷弘行, 松尾直樹, 新城拓也, 宇野さつき, 松原龍弘, 前野 宏, 芽根義和, 池永昌之, 井上 聡. 「看取りのパフレット」を用いた家族への介入の遺族から見た評価: OPTIM-study. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 80) 大谷弘行, 森田達也, 松尾直樹, 新城拓也, 宇野さつき, 山本 亮, 松原龍弘, 廣瀬 光, 瀧川千鶴子, 佐々木一義, 井上 聡. 「看取りのパフレット」を用いた終末期せん妄のケアに対する遺族評価: OPTIM-study. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 81) 森田達也, 末田千恵, 山岸暁美, 鈴木 聡, 木下寛也, 白髭 豊, 鄭 陽. どのような緩和ケアセミナーが求められているのか: 4188 名が評価した緩和ケアセミナーの有用性に影響する要因: OPTIM-study. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 82) 鄭 陽, 白土明美, 藤本亘史, 佐々木一義, 吉川陽子, 鈴木留美, 大岩早苗, 井上 聡, 井村千鶴, 森田達也. 患者・遺族調査の結果をもとにした緩和ケアセミナーの有用性: OPTIM 浜松. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 83) 藤本亘史, 森田達也, 福本和彦, 川口知香, 佐々木一義, 吉川陽子, 山田博英, 番匠千佳子, 鈴木留美, 大岩早苗. 早期からの緩和ケアは実現されている: OPTIM 浜松 3 年間の経験. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 84) 井村千鶴, 青木 茂, 細田 修, 小野宏志, 佐藤 泉, 佐藤文恵, 前堀直美, 小坂和宏, 森田達也. 退院前カンファレンス・退院前訪問の遺族からみた評価: OPTIM 浜松. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 85) 井村千鶴, 野末よし子, 赤澤輝和, 伊藤富士江, 森田達也. 浜松市におけるがん患者の自宅死亡率の推移: OPTIM 浜松. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 86) 井村千鶴, 佐原千恵子, 梨田えり子, 齋藤広江, 濱田史子, 前堀直美, 鈴木留美, 工藤ゆかり, 鳥山講子, 森田達也. 地域で行う困難事例カンファレンスの評価: OPTIM 浜松. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 87) 前堀直美, 小坂和宏, 井村千鶴, 青木 茂, 小野宏志, 細田 修, 佐藤 泉, 佐藤文恵, 森田達也. 遺族から見た保険薬局の評価: OPTIM 浜松. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 88) 佐藤 泉, 小野宏志, 細田 修, 青木 茂, 井村千鶴, 佐藤文恵, 前堀直美, 小坂和宏, 森田達也. 在宅特化型診療所と連携する訪問看護ステーションの遺族評価: OPTIM 浜松. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 89) 小野宏志, 青木 茂, 細田 修, 井村千鶴, 佐藤 泉, 佐藤文恵, 前堀直美, 小坂和宏, 森田達也. 地域の多職種で作成した「今, 遺族に聞きたいこと」からみた在宅ホスピスの評価: OPTIM 浜松. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 90) 山内敏宏, 井上 聡, 鄭 陽, 小田切拓也, 厨芽衣子, 梨田えり子, 井村千鶴, 田村ひでみ, 森田達也. 地域におけるホスピスの役割: ホスピスの利用を考える会の評価: OPTIM 浜松. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 91) 和泉典子, 秋山美紀, 奥山慎一郎, 難波幸井, 富樫 清, 柏倉 貢, 渋谷美恵, 武林 亨, 鈴木 聡. 地域緩和ケアチームが開催した多施設・多職種デスカンファレンス参加者の体験. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 92) 奥山慎一郎, 釵持朝子, 富樫 清, 渋谷美恵, 佐藤 正, 鈴木 聡. 施設での看取りに対する意識調査: OPTIM 鶴岡・三川. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 93) 古村和恵, 山岸暁美, 赤澤輝和, 鈴木 聡, 和泉典子, 的場元弘, 森田達也, 江口研二. 市民公開講座を受講した前後の緩和ケアに対するイメージの変化: OPTIM study. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 94) 白髭 豊, 野田剛稔, 吉原律子, 平山美香, 北條美能留, 川崎浩二, 小川富美子, 高崎多恵子. 緩和ケア普及のための地域プロジェクト (OPTIM 長崎) による宅移行症例数, がん自宅死亡率の増加. 第 16 回日本緩和医療学会学術大会. 2011.7.29～30, 札幌
- 95) 森田達也. OPTIM-study は何を明らかにしたのか?: 5 年間の総括. 第 17 回日本緩和医療学会学術大会. 2012.6.22～23, 神戸
- 96) 井村千鶴. OPTIM-study は何を明らかにしたのか?: プロセス研究からの考察. 第 17 回日本緩和医療学会学術大会. 2012.6.22～23, 神戸
- 97) 山岸暁美. OPTIM-study が我が国の制度政策にもたらすもの. 第 17 回日本緩和医療学会学術大会. 2012.6.22～23, 神戸
- 98) 宮下光令, 五十嵐歩, 佐藤一樹, 花田芙蓉子, 五十嵐美

## V. 研究成果

- 幸, 山口拓洋. OPTIM-study がわが国の緩和ケアの研究  
方法論にもたらすもの. 第17回日本緩和医療学会学術大  
会. 2012.6.22~23, 神戸
- 99) 白髭 豊, 野田剛稔, 北條美能留, 後藤慎一, 富安志郎,  
出口雅浩, 奥平定之, 安中正和, 平山美香, 宮下光令, 森  
田達也. OPTIM プロジェクト前後での病院から在宅診療へ  
の移行率と病院医師・看護師の在宅の視点の変化. 第17  
回日本緩和医療学会学術大会. 2012.6.22~23, 神戸
- 100) 秋月伸哉, 森田達也, 鈴木 聡, 木下寛也, 白髭 豊,  
江口研二. OPTIM 介入前後での緩和ケアチーム活動の変  
化. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012.6.22~23,  
神戸
- 101) 秋月伸哉, 森田達也, 鈴木 聡, 木下寛也, 白髭 豊,  
江口研二. 地域緩和ケアチーム活動の実態報告 OPTIM  
研究. 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012.6.22~  
23, 神戸
- 102) 春原光宏, 佐藤一樹, 白髭 豊, 中里和弘, 加藤雅志,  
出口雅浩, 山岸暁美, 小谷和彦, 山田雅子, 野田剛稔, 川  
越正平. 「病院医師の入院患者に対する在宅医療の視点」  
評価尺度の開発と信頼性・妥当性の検討. 第17回日本緩  
和医療学会学術大会. 2012.6.22~23, 神戸
- 103) Akiyama M, Takebayashi T, Morita T, Miyashita M,  
Hirai K, Matoba M, Akizuki N, Shirahige Y, Yamagishi  
A, Eguchi K, Do patients with advanced stages of  
cancer feel secure in receiving care at home and in the  
region?: a large-scale survey in Japan. Academy  
Health 2011 Annual Research Meeting. 2011.6.12~14,  
Seattle





## 2 論文発表

- 1) Yamagishi A, Morita T, Miyashita M, Akizuki N, Kizawa Y, Shirahige Y, Akiyama M, Hirai K, Kudo T, Yamaguchi T, Fukushima A, Eguchi K. Palliative care in Japan: Current status and a nationwide challenge to improve palliative care by the Cancer Control Act and the Outreach Palliative Care Trial of Integrated Regional Model (OPTIM) study. *Am J Hosp Palliat Med* 25: 412-418, 2008
- 2) Fukahori H, Miyashita M, Morita T, Ichikawa T, Akizuki N, Akiyama M, Shirahige Y, Eguchi K. Administrators' perspectives on end-of-life care for cancer patients in Japanese long-term care facilities. *Support Care Cancer* 17: 1247-1254, 2009
- 3) Hirai K, Kudo T, Akiyama M, Matoba M, Shiozaki M, Yamaki T, Yamagishi A, Miyashita M, Morita T, Eguchi K. Public awareness, knowledge of availability, and readiness for cancer palliative care services: a population-based survey across four regions in Japan. *J Palliat Med* 14: 918-922, 2011
- 4) Komura K, Yamagishi A, Akizuki N, Kawagoe S, Kato M, Morita T, Eguchi K. Patient-perceived usefulness and practical obstacles of patient-held records for cancer patients in Japan: OPTIM study. *Palliat Med* 2011 Dec 16. (in press)
- 5) Yamagishi A, Morita T, Miyashita M, Ichikawa T, Akizuki N, Shirahige Y, Akiyama M, Eguchi K. Providing palliative care for cancer patients: the views and exposure of community general practitioners and district nurses in Japan. *J Pain Symptom Manage* 43: 59-67, 2012
- 6) Morita T, Miyashita M, Yamagishi A, Akizuki N, Kizawa Y, Shirahige Y, Akiyama M, Hirai K, Matoba M, Yamada M, Matsumoto T, Yamaguchi T, Eguchi K. A region-based palliative care intervention trial using the mixed-method approach: Japan OPTIM study. *BMC Palliat Care* 11: 2, 2012
- 7) Igarashi A, Miyashita M, Morita T, Akizuki N, Akiyama M, Shirahige Y, Eguchi K. A scale for measuring feelings of support and security regarding cancer care in a region of Japan: a potential new endpoint of cancer care. *J Pain Symptom Manage* 43: 218-225, 2012
- 8) Akiyama M, Takebayashi T, Morita T, Miyashita M, Hirai K, Matoba M, Akizuki N, Shirahige Y, Yamagishi A, Eguchi K. Knowledge, beliefs, and concerns about opioids, palliative care, and homecare of advanced cancer patients: a nationwide survey in Japan. *Support Care Cancer* 20: 923-931, 2012.
- 9) Yamagishi A, Morita T, Miyashita M, Igarashi A, Akizuki N, Shirahige Y, Akiyama M, Eguchi K. Pain intensity, quality of life, quality of palliative care, and satisfaction in outpatients with metastatic or recurrent cancer: a Japanese, nation-wide, region-based, multicenter survey. *J Pain Symptom Manage* 43: 503-514, 2012
- 10) Yamagishi A, Morita T, Miyashita M, Yoshida S, Akiyama M, Akizuki N, Shirahige Y, Eguchi K. Preferred place of care and place of death of the general public and cancer patients in Japan. *Support Care Cancer* 20: 2575-2582, 2012
- 11) 鄭 陽, 井村千鶴, 野末よし子, 赤澤輝和, 古村和恵, 森田達也, 大木純子, 清原恵美, 井上 聡, 田村ひでみ, 藤本亘史, 大谷弘行, 天野功二, 佐久間由美, 加藤亜沙代, 福田かおり, 末田千恵, 山岸暁美. 地域における講義とグループディスカッションを複合した多職種セミナーの有用性. *ペインクリニック* 30: 1553-1563, 2009
- 12) 秋山美紀, 的場元弘, 武林 亨, 中目千之, 松原要一. 地域診療所医師の在宅緩和ケアに関する意識調査. *Palliat Care Res* 4: 112-122, 2009
- 13) 井村千鶴, 藤本亘史, 野末よし子, 細田 修, 小野宏志, 井上 聡, 森田達也. 緩和ケアチームによる診療所へのアウトリーチプログラムの有用性. *癌と化学療法* 37: 863-870, 2010
- 14) 井村千鶴, 古村和恵, 野末よし子, 赤澤輝和, 森田達也. 浜松市のがん患者に対するケアマネジメントの実態調査. *緩和ケア* 20: 92-98, 2010
- 15) 井村千鶴, 古村和恵, 末田千恵, 大木純子, 清原恵美, 野末よし子, 赤澤輝和, 田村ひでみ, 笹ヶ瀬容子, 井上 聡, 山岸暁美, 森田達也. 地域における緩和ケアの連携を促進する取り組み フォーカスグループの有用性. *緩和ケア* 20: 204-209, 2010
- 16) 井村千鶴, 古村和恵, 末田千恵, 大木純子, 清原恵美, 野末よし子, 赤澤輝和, 田村ひでみ, 笹ヶ瀬容子, 井上 聡, 山岸暁美, 森田達也. 地域における緩和ケアの連携を促進する取り組み フォーカスグループの有用性 (2). *緩和ケア* 20: 308-312, 2010
- 17) 井村千鶴, 古村和恵, 末田千恵, 大木純子, 清原恵美, 野末よし子, 赤澤輝和, 田村ひでみ, 笹ヶ瀬容子, 井上 聡,

- 山岸暁美, 森田達也. 地域における緩和ケアの連携を促進する取り組み フォーカスグループの有用性 (3). 緩和ケア 20: 417-422, 2010
- 18) 伊藤富士江, 井村千鶴, 森田達也. がん在宅緩和医療の課題と解決策に関する診療所医師を対象とした訪問調査. 緩和ケア 20: 641-647, 2010
- 19) 赤澤輝和, 野末よし子, 井村千鶴, 森田達也. 緩和ケアについての市民・患者対象の啓発介入の実態調査. Palliat Care Res 5: 171-174, 2010
- 20) 井村千鶴, 野末よし子, 伊藤富士江, 赤澤輝和, 森田達也. がん患者に対する介護保険手続きの迅速化の効果. 緩和ケア 21: 102-107, 2011
- 21) 赤澤輝和, 川崎由実, 山田博英, 野末よし子, 井村千鶴, 森田達也. 緩和ケアの啓発用冊子を病院内のどこに置いたらよいか? 緩和ケア 21: 221-225, 2011
- 22) 山岸暁美, 森田達也, 古村和恵, 末田千恵, 白髭 豊, 木下寛也, 秋月伸哉, 鈴木 聡, 加藤雅志, 江口研二. 地域のがん緩和ケアの課題と解決策の抽出—OPTIM-Studyによる複数地域・多職種による評価—. 癌と化学療法 38: 1889-1895, 2011
- 23) 井村千鶴, 野末よし子, 伊藤富士江, 赤澤輝和, 森田達也. 病院と地域とで行う連携ノウハウ共有会とデスクカンファレンスの参加者の体験. 緩和ケア 21: 335-342, 2011
- 24) 山岸暁美, 赤澤輝和, 瀬尾利佳子, 末田千恵, 古村和恵, 森田達也. 在宅緩和ケアに関する望ましいリソースデータベースとは何か: 多地域多職種を対象とした質的研究. 緩和ケア 21: 443-448, 2011
- 25) 清原恵美, 井村千鶴, 梨田えり子, 福田かおり, 森田達也, 井上 聡. 地域における緩和ケア病棟の役割—緩和ケア病棟における地域の看護師を対象とした研修の評価—. 死の臨床 34: 110-115, 2011
- 26) 井村千鶴, 青木 茂, 細田 修, 小野宏志, 佐藤 泉, 佐藤文恵, 前堀直美, 小坂和宏, 森田達也. 在宅死亡したがん患者の遺族による退院前カンファレンス・退院前訪問の評価. 緩和ケア 21: 533-541, 2011
- 27) 鈴木留美, 山口 崇, 藤本亘史, 安藤江美, 加藤亜沙代, 森田達也. 「生活のしやすさ質問票 第3版」を用いた外来化学療法患者の症状頻度・ニーズおよび専門サービス相談希望の調査. 緩和ケア 21: 542-548, 2011
- 28) 古村和恵, 宮下光令, 木澤義之, 川越正平, 秋月伸哉, 山岸暁美, 的場元弘, 鈴木 聡, 木下寛也, 白髭 豊, 森田達也, 江口研二. 進行がん患者と遺族のがん治療と緩和ケアに対する要望—821名の自由記述からの示唆—. Palliat Care Res 6: 237-245, 2011
- 29) 川越正平, 廣岡佳代, 白髭 豊. 電話インタビュー調査に基づく在宅医療診療連携システムの類型化 (OPTIM方式). 日本医事新報 4565号, p.87-92, 2011
- 30) 小野宏志, 細田 修, 井村千鶴, 青木 茂, 佐藤文恵, 前堀直美, 小坂和宏, 佐藤 泉, 森田達也. 地域の多職種で作成した調査票を用いた在宅死亡がん患者の遺族による多機関多職種の評価. 緩和ケア 21: 655-663, 2011
- 31) 末田千恵, 山岸暁美, 鈴木 聡, 木下寛也, 鄭 陽, 白髭 豊, 木澤義之, 森田達也. どのような緩和ケアセミナーが求められているのか: 4,188名が評価した緩和ケアセミナーの有用性に影響する要因. ペインクリニック 32: 1215-1222, 2011
- 32) 古村和恵, 山岸暁美, 赤澤輝和, 鈴木 聡, 和泉典子, 的場元弘, 森田達也, 江口研二. 市民の緩和ケアに対するイメージの変化. 緩和ケア 22: 79-83, 2012
- 33) 井村千鶴, 鄭 陽, 白土明美, 藤本亘史, 佐々木一義, 吉川陽子, 鈴木留美, 大岩早苗, 井上 聡, 森田達也. 患者・遺族調査の結果に基づいた緩和ケアセミナーの有用性. ペインクリニック 33: 241-250, 2012
- 34) 佐藤 泉, 小野宏志, 細田 修, 青木 茂, 井村千鶴, 佐藤文恵, 前堀直美, 小坂和宏, 森田達也. 在宅特化型診療所と連携する訪問看護ステーションの遺族評価. 訪問看護と介護 17: 155-159, 2012
- 35) 井村千鶴, 佐原千恵子, 梨田えり子, 濱田史子, 工藤ゆかり, 鈴木留美, 前堀直美, 齋藤広江, 鳥山講子, 森田達也. 地域で行うデスクカンファレンスの有用性と体験. 緩和ケア 22: 189-194, 2012
- 36) 前堀直美, 水上有紀子, 安達三郎, 永江浩史, 藤本亘史, 森田達也. 外来患者のがん疼痛に対する保険薬局薬剤師の電話モニタリング・受診前アセスメントの効果. ペインクリニック 33: 817-824, 2012
- 37) 森田達也, 野末よし子, 花田芙蓉子, 宮下光令, 鈴木 聡, 木下寛也, 白髭 豊, 江口研二. 地域対象の緩和ケアプログラムによる医療福祉従事者の自覚する変化: OPTIM-study. Palliat Care Res 7: 121-135, 2012
- 38) 森田達也, 井村千鶴, 野末よし子, 鈴木 聡, 渋谷美恵, 木下寛也, 原田久美子, 白髭 豊, 平山美香, 江口研二. 地域緩和ケアプログラムに参加した医療福祉従事者が地域連携のために同職種・他職種に勧めること: OPTIM-study. Palliat Care Res 7: 163-171, 2012
- 39) 森田達也, 野末よし子, 宮下光令, 小野宏志, 藤島百合子, 白髭 豊, 川越正平. 在宅緩和ケアを担う診療所として在宅特化型診療所とドクターネットは相互に排他的か? Palliat Care Res 7: 317-322, 2012
- 40) 森田達也, 野末よし子, 井村千鶴. 地域緩和ケアにおける「顔の見える関係」とは何か? Palliat Care Res 7: 323-333, 2012
- 41) 山田博英, 小田切拓也, 津村明美, 井村千鶴, 宮下光令, 森田達也. 患者・遺族調査から作成した医療者向け冊子「がん患者さん・ご家族の声」. Palliat Care Res 7: 342-347, 2012
- 42) 木澤義之, 梅田 恵, 新城拓也, 石ヶ森一枝, 奥山慎一郎, 木下寛也, 白髭 豊, 井村千鶴, 野末よし子, 森田達也. 地域で統一した緩和ケアマニュアル・パンフレット・評価シートの評価: OPTIM-study. Palliat Care Res 7: 172-184, 2012
- 43) 山本 亮, 大谷弘行, 松尾直樹, 新城拓也, 宇野さつき, 廣瀬 光, 松原龍弘, 瀧川千鶴子, 前野 宏, 佐々木一義, 茅根義和, 池永昌之, 森田達也. 看取りの時期が近づいた患者の家族への説明に用いる『看取りのパンフレット』の有用性: 多施設研究. Palliat Care Res 7: 192-201, 2012
- 44) 森田達也, 井村千鶴, 野末よし子, 鈴木 聡, 渋谷美恵, 木下寛也, 原田久美子, 白髭 豊, 平山美香, 江口研二. 地域緩和ケアプログラムに参加した医療福祉従事者が最も大きいと体験すること: OPTIM-study. Palliat Care Res 7: 209-217, 2012
- 45) 木下寛也, 松本禎久, 阿部恵子, 宮下光令, 森田達也. が



- ん専門病院緩和ケア病棟の運営方針が地域の在宅がん死亡率に及ぼす影響. *Palliat Care Res* 7:348-353, 2012
- 46) 和泉典子, 秋山美紀, 奥山慎一郎, 難波幸井, 柏倉 貢, 富樫 清, 渋谷美恵, 鈴木 聡. 地域における多施設・多職種デスカンファレンス参加者の体験に関する探索的研究. *Palliat Care Res* 7:354-362, 2012
- 47) 森田達也, 秋月伸哉, 鈴木 聡, 木下寛也, 白髭 豊, 宮下光令. 異なる算出方法による地域での専門緩和ケアサービス利用数の比較. *Palliat Care Res* 7:374-381, 2012
- 48) 森田達也, 古村和恵, 佐久間由美, 井村千鶴, 野末よし子, 木下寛也, 白髭 豊, 山岸暁美, 鈴木 聡. 患者所持型情報共有ツール『わたしのカルテ』の評価:OPTIM-study. *Palliat Care Res* 7:382-388, 2012
- 49) 白髭 豊, 野田剛稔, 北條美能留, 後藤慎一, 富安志郎, 出口雅浩, 奥平定之, 安中正和, 平山美香, 吉原律子, 船本太栄子, 五十嵐歩, 宮下光令, 森田達也. OPTIMプロジェクト前後での病院から在宅診療への移行率と病院医師・看護師の在宅の視点の変化. *Palliat Care Res* 7:389-394, 2012
- 50) 森田達也, 宮下光令, 井上芙蓉子, 佐藤一樹, 五十嵐歩, 五十嵐美幸, 山口拓洋, 橋本修二. 遺族調査に基づく自宅死亡を希望していると推定されるがん患者数. *Palliat Care Res* 7:403-407, 2012
- 51) 木下寛也, 渡邊 敏, 小笠原鉄郎, 橋本 淳, 松尾直樹, 三宅 智, 森田達也. がん専門病院が地域緩和ケアの向上のために取り組んでいることと課題. *癌と化学療法* 39:1527-1532, 2012

## 研究組織

### 厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業

#### 緩和ケアプログラムによる地域介入研究班 (2007～2010 年度)

研究リーダー	江口 研二 (帝京大学医学部)
リーダー補佐	森田 達也 (聖隷三方原病院)
プロジェクトマネジャー	山岸 暁美 (～2009 年度) (前 東京大学大学院医学系研究科, 前 慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室)

#### 運営委員会委員 (五十音順, 所属は現在)

秋月 伸哉 (千葉県がんセンター)
秋山 美紀 (慶應義塾大学)
石川ベンジャミン光一 (2007 年度) (国立がん研究センター)
梅田 恵 (株式会社 緩和ケアパートナーズ)
角田 直枝 (2007 年度) (日本訪問看護振興財団 (当時), 茨城県立中央病院 (現在))
加藤 雅志 (2009 年度～) (国立がん研究センター)
川越 正平 (2008 年度～) (あおぞら診療所)
木澤 義之 (筑波大学)
木下 寛也 (2008 年度～) (国立がん研究センター東病院)
菊地 信孝 (2007 年度) (岡部医院 (当時))
志真 泰夫 (筑波メディカルセンター病院)
白髭 豊 (白髭内科医院)
鈴木 聡 (鶴岡市立荘内病院)
武林 亨 (2009 年度～) (慶應義塾大学)
中山 康子 (2007 年度) (NPO 法人在宅緩和ケア支援センター虹)
平井 啓 (大阪大学)
松本 武敏 (2007 年度) (熊本再春荘病院 (当時))
的場 元弘 (国立がん研究センター)
宮下 光令 (東北大学大学院)
森田 達也 (聖隷三方原病院)
山川 宣 (2008 年度～) (国家公務員共済組合連合会 六甲病院)
山口 拓洋 (東北大学大学院)
山田 雅子 (聖路加看護大学)

#### 研究対象地域 責任者

鶴岡地域	松原 要一 (～2009 年度) (鶴岡市立荘内病院)
	三科 武 (2010 年度～) (鶴岡市立荘内病院)
柏地域	江角 浩安 (～2009 年度) (国立がん研究センター東病院)
	木下 寛也 (2010 年度～) (国立がん研究センター東病院)
浜松地域	荻野 和功 (聖隷三方原病院)
長崎地域	諸岡 久夫 (～2008 年度) (一般社団法人 長崎市医師会)
	野田 剛稔 (2009 年度～) (一般社団法人 長崎市医師会)

#### 研究対象地域 研究協力者

鶴岡地域	中目 千之 (社団法人 鶴岡地区医師会)
	渋谷 美恵 (鶴岡市立荘内病院)
	佐藤 久美 (緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川)
	相庭 伸 (緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川)
酒田地域	栗谷 義樹 (日本海総合病院)
	田宮 和朗 (日本海総合病院)
	坂井 庸祐 (日本海総合病院 (当時), さかい往診クリニック (現在))
	本間 清和 (酒田地区医師会)
	梅木 三夫 (酒田地区医師会)
柏地域	原田久美子 (がん患者・家族総合支援センター)
	林 真子 (がん患者・家族総合支援センター (当時))
	中村 香織 (がん患者・家族総合支援センター (当時))
	内田 麻衣 (がん患者・家族総合支援センター)
	小島歩実子 (がん患者・家族総合支援センター (当時))
浜松地域	井村 千鶴 (聖隷三方原病院)
	赤澤 輝和 (健康科学大学)

---

長崎地域

古村 和恵 (大阪大学大学院)  
伊藤富士江 (医療法人弘遠会 すずかけセントラル病院)  
野末よし子 (聖隷三方原病院)  
藤井 卓 (藤井外科医院)  
橋本 清 (医療法人清栄会 ハシモト耳鼻咽喉科医院)  
鳥山ふみ子 (一般社団法人 長崎市医師会保健福祉センター)  
船本太栄子 (一般社団法人 長崎市医師会保健福祉センター)  
古川 美和 (一般社団法人 長崎市医師会保健福祉センター)  
林田 恭子 (一般社団法人 長崎市医師会保健福祉センター)  
詫摩 和彦 (医療法人 たくま医院)  
奥平 定之 (医療法人社団 奥平外科医院)  
出口 雅浩 (医療法人 出口外科医院)  
安中 正和 (安中外科・脳神経外科医院)  
吉原 律子 (長崎がん相談支援センター〈当時〉, 日本赤十字広島看護大学 大学院〈現在〉)  
平山 美香 (長崎がん相談支援センター〈当時〉, 長崎市包括ケアまちなかラウンジ〈現在〉)  
木場 英郎 (長崎がん相談支援センター〈当時〉, 長崎市包括ケアまちなかラウンジ〈現在〉)  
富安 志郎 (地方独立行政法人 長崎市立病院機構長崎市立市民病院)  
北條美能留 (長崎大学病院 緩和ケアチーム)  
中根 秀之 (長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科, 精神障害リハビリテーション学分野)  
龍 恵美 (長崎大学病院 薬剤部)  
長浦 由紀 (長崎大学病院 総合診療科)  
後藤 慎一 (日本赤十字社 長崎原爆病院麻酔科)  
加藤 周子 (宗教法人聖フランシスコ会 聖フランシスコ病院)  
朝永 良介 (朝永在宅診療所〈当時〉, 医療法人弘仁会出島病院〈現在〉)  
蓬莱 彰士 (独立行政法人 国立病院機構長崎医療センター)  
中尾勘一郎 (医療法人 ホームホスピス中尾クリニック)  
松尾 誠司 (長崎宝在宅医療クリニック)  
行成 壽家 (医療法人 ゆきなり・クリニック)  
福留登貴子 (ケアプランセンターみなつき)  
戸村 孝章 (株式会社 メディカルネットワーク指定居宅介護支援事業所)  
松尾 英俊 (シーボルト通り薬局)

---

研究支援組織 (日本対がん協会戦略研究推進室)

松村 有子 (日本対がん協会 戦略研究推進室)

---

厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業

緩和ケアプログラムによる地域介入研究班 (2011～2012 年度)

班長 江口 研二 (帝京大学医学部)  
班員 (五十音順) 秋月 伸哉 (千葉県がんセンター)  
秋山 美紀 (慶應義塾大学)  
梅田 恵 (株式会社 緩和ケアパートナーズ)  
加藤 雅志 (国立がん研究センター)  
川越 正平 (あおぞら診療所)  
木澤 義之 (筑波大学)  
木下 寛也 (国立がん研究センター東病院)  
白髭 豊 (白髭内科医院)  
鈴木 聡 (鶴岡市立荘内病院)  
武林 亨 (慶應義塾大学)  
平井 啓 (大阪大学)  
宮下 光令 (東北大学大学院)  
森田 達也 (聖隷三方原病院)  
山川 宣 (国家公務員共済組合連合会 六甲病院)

---



## 謝 辞

本研究にご参加いただいた多くの患者さん、ご家族の方々、および本研究班の研究・運営を担当された各地域の関係者の方々には、多大なご協力・ご尽力をいただきました。本研究班を代表して、深謝いたします。

江口研二（研究班班長）

浅井 篤 五十嵐 歩 五十嵐美幸 市川 堯之 井上芙蓉子  
岡本左和子 片山 史絵 工藤 直志 塩崎麻里子 能勢 麻子  
橋本 修二 尾藤 誠司

---

### 【執筆者一覧】（五十音順）

赤澤 輝和	秋月 伸哉	秋山 美紀	和泉 典子	伊藤 富士江
井村 千鶴	梅田 恵	江口 研二	大井 賢一	大谷 弘行
奥平 定之	小田切 拓也	落合 由美	加藤 雅志	叶野 明美
川越 正平	川添 哲嗣	木澤 義之	木下 寛也	古村 和恵
佐田 悦子	佐藤 泉	佐藤 一樹	白髭 豊	鈴木 聡
春原 光宏	瀬尾 利加子	鄭 陽	中里 和弘	野末 よし子
橋本 清	林 真子	林田 恭子	平井 啓	深堀 浩樹
藤井 卓	古川 美和	前堀 直美	的場 元弘	宮下 光令
森田 達也	山川 宣	山岸 暁美	山口 崇	山本 亮
行成 壽家	吉田 沙蘭	吉原 律子		

**OPTIM Report 2012 エビデンスと提言**  
**緩和ケア普及のための地域プロジェクト報告書**  
**Outreach Palliative care Trial**  
**of Integrated regional Model**

---

2013年3月 第1版第1刷発行

非売品

---

平成24年度 厚生労働科学研究費補助金  
第3次対がん総合戦略研究事業  
「緩和ケアプログラムによる地域介入研究」班  
研究代表者 江口研二

---

制 作 株式会社 青海社

---

